

あとがき

近江八幡市には結局三度訪問することになった。最初の水郷めぐりは静かでのんびりとした船旅となり、目に入るのは青空と水面、水路の両側に生い茂る葦ばかりの都会の喧騒とは無縁な世界であり、暑い最中に手漕ぎの屋形船で味わう近江牛のスキヤキも一興だ。二度目の沖島、定期船はあっという間に着いた気がする。島はずれの民宿で川部会の皆さんと楽しんだ湖魚料理のフルコースは格別であった。三度目は八幡山に登った。今にも泣きそうな空模様だったとはいえ、秀次も見たであろう眼下に広がる琵琶湖、西の湖、安土城跡と東近江の風景は素晴らしかった。あちこちにある湧水の有り様はさまざまだったとはいえ、湧出した水の流れに沿った散策は、人々の生活と水の関わりを感じさせるものであった。

(公社)日本水環境学会関西支部川部会/駒井 幸雄

参考文献

- ・(一社)近江八幡観光物産協会「滋賀近江八幡水都八都」, No.17~No.26.
- ・(一社)近江八幡観光物産協会「近江八幡郷土史研究会 豊臣秀次」より抜粋
- ・(一社)近江八幡観光物産協会ホームページ <http://www.omi8.com> (2015年12月現在)
- ・近江八幡市文化観光課「近江八幡漫遊」
- ・滋賀県(2014)滋賀の環境2014(平成26年度版環境白書)
- ・滋賀県教育委員会事務局文化財保護課「近江水の宝マップ」

既刊の紹介

- ・源流を行く 編 『名張川』(2013)『木津川上流』(2013)『高時川・余呉湖』(2014)『桂川・由良川源流』(2014)
- ・おうみの川 編 『赤野井湾と流入河川』(2013)『安曇川』(2015)
- ・みやびな川 編 『白川』(2010)『鴨川・明神川』(2012)『琵琶湖疏水』(2013)『京の川』(2014)『高野川』(2015)『伏見の川・醍醐の川』(2015)
- ・歴史とロマンの川 編 『瀬田川・宇治川』(2010)『保津川・桂川』(2011)『芥川』(2011)『猪名川』(2013)『天野川』(2015)
- ・なにわの川・庶民の川 編 『東横堀川・道頓堀川』(2011)『恩智川・生駒の川』(2012)『中河内の川』(2013)『大川と大阪市内河川』(2013)『寝屋川』(2015)

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構
〈企画編集〉(公社)日本水環境学会関西支部川部会
(一社)近畿建設協会

琵琶湖・淀川 里の川をめぐる

~ちょっと大人の散策ブック~ 〈おうみの川〉

近江八幡水郷・西の湖 (Oumihachimansuigou・Nishinoko)

〔発行〕平成28年2月

〔発行者〕公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構

〒540-0008 大阪市中央区大手前1-2-15 (大手前センタービル4F)

TEL. 06(6920)3035 FAX. 06(6920)3036

<ホームページ> <http://www.byq.or.jp/>

* 散策ブックはホームページ上で閲覧することができます *

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構では、寄付へのご協力・賛助会員のご入会をお願いしております。戴いた会費・寄付金は、当機構を通じ琵琶湖・淀川流域の水質保全に活かされます。詳しくは、ホームページをご覧ください。

琵琶湖・淀川 里の川をめぐる

~ちょっと大人の散策ブック~

おうみの川 編

近江八幡水郷・西の湖

(Oumihachimansuigou・Nishinoko)

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構
(公社)日本水環境学会関西支部川部会
(一社)近畿建設協会



「琵琶湖・淀川流域散策ブック」のねらい

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構と(公社)日本水環境学会関西支部川部会、(一社)近畿建設協会は、大都市圏の川を水質という側面だけではなく総合的に把握し、その機能を再評価するために川部会が2001年より行ってきた活動の成果を基礎に、「琵琶湖・淀川流域散策ブック」をまとめることになった。

この散策ブックは、琵琶湖・淀川流域の河川を散策する時に気軽に携帯できるガイドブックを意図して作られており、対象河川の概要はもとより、流域の見どころ、名水や滝、水質や生物、その川にまつわる興味深い話などが、豊富な写真や地図を用いて解説されている。

散策ブック全体は、「源流を行く」、「おうみの川」、「みやびな川」、「歴史とロマンの川」、「なにわの川・庶民の川」の5編で構成され、それぞれ5、6リーフレットからなる。本リーフレットでは、「おうみの川」編として、近江八幡水郷および西の湖をとりあげた。

本ブックシリーズが、琵琶湖・淀川流域の河川に親しみを感じ、流域を散策するための一助になることを願っている。

目次

ねらい・目次	
近江八幡水郷・西の湖の概要	02
近江八幡の水郷	03
コラム1 近江商人と語録	04
八幡伝統的建造物群保存地区	05
コラム2 ウィリアム・M・ヴォーリズ	07
西の湖とその周辺	09
コラム3 朝鮮人街道	11
コラム4 西の湖の水質	13
沖島	14

CONTENTS

(表紙写真／八幡堀)

1 近江八幡水郷・西の湖の概要

近江八幡市おうみはちまんしは、滋賀県中部の琵琶湖東岸に位置し、豊臣秀吉の甥で後に関白となった豊臣秀次が築いた城下町を基礎に発展してきた近江商人の町である。

現在の人口は82,449人(2014年)で滋賀県第7位の市である。年平均気温と年降水量(2013年度)はそれぞれ14.8℃と1,537mmであり、温暖な気候である。

東には、織田信長ゆかりの安土城跡がある安土山、西に近江八幡市の象徴ともいえる八幡山、そして琵琶湖との間の長命寺山などいずれも標高の低い山々が点在する近江平野の一角にある。

この地域には、かつて数多くの琵琶湖の内湖があった。それを結んで縦横に張り巡らされた水路とその一帯の風景は、干拓によってずいぶん変わってしまった。しかし、現在も残る琵琶湖最大の内

湖である西の湖とそれを結ぶ水路は、水郷の名にふさわしい風景を醸しだしている。西の湖には安土川など4河川が流入し、長命寺川を経て琵琶湖につながっている。西の湖と長命寺川は、2006年に鳥獣保護区に指定され、2008年には琵琶湖のラムサール条約湿地登録エリアに追加された。

干拓地は広大な農地となっており、その美しい田園風景と歴史的な見どころは、自転車専用道路びわ湖よし笛ロードのサイクリングで楽しむことができる。

旧城下町の基盤目状に整備された近江八幡の通りには、江戸時代に建てられた近江商人達の家がよく保存されている。これらの建造物群は、国指定の「近江八幡市八幡伝統的建造物群保存地区」に選定されている。加えて、明治時代にこの地に移り住み、その生涯を送った米国人ウィリアム・メルル・ヴォーリズによる多くの近代建築作品が遺されている。こうした伝統と近代の混ざった町並みと水郷の風景は近江八幡市の重要な観光資源となっており、全国から年間300万人もの観光客が訪れている。

近江八幡市の琵琶湖沖にある沖島おきしまは、国内では唯一淡水湖の中に人が住む島である。世界的にみても沖島のような例は非常に珍しいとされている。



近江八幡市の水郷・西の湖・沖島の概略図

2 近江八幡の水郷

近江八幡の水郷は、琵琶湖八景の一つ「春色・安土八幡の水郷」といわれる風光明媚な場として知られ、国の重要文化的景観第一号(2006年)に選ばれている。

入りくんだ水郷のヨシ原の間をゆったりと屋形船で行くのが**水郷めぐり**である。近江八幡にはいくつかの船乗り場があり、昔ながらの手漕ぎ船から船外機付の機械船まで様々の屋形船が停泊している。

水郷めぐりはいくつかのルートがあって約80分の船旅だが、船内で近江牛のスキヤキを楽しむこともできる。船は両側に生える葦を見ながらゆったりと水路を歩き、いくつもの橋を潜り抜けながら進む。電柱や人家など現代を思わせるものは全く見えず、時代劇の定番の場所として登場する橋があるとの話は十分納得ができる。冬にはヨシ原で刈り取り風景が見られ、3月の「ヨシ焼き」は水郷の早春の風物詩である。船は西の湖の一



水郷のヨシ原



昔ながらの手漕ぎ船



ヨシ焼き
[写真提供:北之庄沢を守る会]



八幡堀



土倉群



背割

角を通り過ぎ水路に再び戻ると、船乗り場も近い。

八幡山山麓の堀は、秀次が築いた**八幡堀**である。両端は西の湖と琵琶湖につながれた運河になっており、湖内を行き来する全ての荷船はここを通る規則になっていた。一時期はゴミも投棄されたドブ川と化し、埋立も検討された。しかし、地元の人々の努力でよみがえり、今は近江八幡を代表する観光スポットである。

かわらミュージアム前の八幡堀乗船場から乗船する八幡堀めぐりでは、近江商人の栄華を示す土蔵群や石垣を見ながらの船旅が楽しめる。途中、民家の間から八幡堀に落ちる溝は、秀次が作った**背割**(下水溝の跡)であり、日本最古の下水道との説がある。また、町外の井戸から竹の管を敷設して造られた町中の共同井戸は上水道ともいえる。こうしたことから秀次は、上下水道というインフラを充足させた街づくりを目指した人物としての評価を得ている。



コラム① 近江商人と語録

近江商人とは近江で商いを行う商人ではない。近江を本宅・本店とし、他国へ行商した商人の総称である。個別にはその出身地からたとえば「八幡商人」などと呼ばれていた。近江八幡の町から、天秤棒を肩に全国に活動を広げ、北は北海道から南ははるか安南(ベトナム)やシャム(タイ)まで進出した。明治以降、日本経済の近代化にも八幡商人をはじめとする近江商人たちが大きく貢献した。彼らは「売り手よし、買い手よし、世間よし」という「三方よし」の理念を商売の基本とし、自ら利益のみを追求することなく、社会事業にも大きく寄与した。

近江商人達の語録は今も伝えられている。上記の「三方よし」の他、理念・商法としては、権力に依存して利益を得ることを潔しとしない「武士は敬して遠ざけよ」、今で言う公共

事業的なものを率先して実施した「お助け普請」、財の豊かさに見合う、人格・教養・礼儀作法・人間形成を強く求め、奢ることは即ち身を滅ぼすことに繋がる子孫へ戒めた「質素儉約」、一度で大きな利益を得るような商いは良しとせず、長期的な商いを行うことを求めた「薄利多売」など、現在にも通じる数々の教訓である。



新町通り、見越しの松のある町屋

3 八幡伝統的建造物群保存地区

国により滋賀県初の選定を受けた**近江八幡市八幡伝統的建造物群保存地区**は、新町通り、永原町通り、八幡堀周辺、日牟禮八幡宮境内地周辺からなり、ひむれはちまんぐう 基盤目状の整然とした町並みは秀次が築いた当時とほとんど変わっていない。

12本ある南北の通りの一つの**新町通り**には、かつての近江商人たちの昔のままの旧家が両側に並んでいる。国の重要文化財で公開されている**旧西川家住宅**、森五郎兵衛の控宅は**歴史民俗資料館**として、近江商人の往時をしのぶ帳場風景や生活様式が残され、多くの民俗資料が展示されている。このほかにも、**旧西川庄六邸**や**旧森五郎兵衛邸**が軒を連ねている。

これら近江商人の家々の2階の隣家との境には、成功者のたとえとして使われている“うだつを上げる”、その反対の“うだつがあがらない”、の語源となる本来防火用に作られた“うだつ”が上がっている。この他、見越しの松、格子戸と貫見せ、しょうき、むしこ窓、犬矢来、摺り上げ戸など切妻造棧瓦葺で平入の木造建築という特徴がある。

近江八幡市の伝統的町並みの保存計画には、町家の外観を維持するための修理基準が設けられている。あわせて、伝統的建築様式を世襲する、あるいは非伝統的建築様式の建物の外観を伝統的建築様式に合致・順ずるという修景基準があり、これに基づいた取り組みが進められている。

郷土資料館は、代表的な近江商人であった西村太郎右衛門の宅地跡に建てられた旧警察署を利用したものであり、考古・民俗などの資料が展示されている。

郷土資料館の対面にある**旧伴家住宅**(市指定文



旧西川家住宅



歴史民俗資料館

[写真提供:一般社団法人 近江八幡観光物産協会]



郷土資料館



旧伴家住宅



八幡山ロープウェイ



八幡山展望 市中心部



八幡山展望 琵琶湖遠望



八幡山城跡



村雲御所瑞龍寺



豊臣秀次公像

化財)は、江戸末期に新築された建物であり、その後学校や図書館等と姿を変えつつ、現在は資料館の一つとして開館している。

八幡堀の北にそびえる標高271mの山が**八幡山**である。八幡山頂上には、八幡山ロープウェイに乗ると約4分で着く。ここは秀次が築いた山城の**八幡山城跡**であり、残された城の石垣が当時の雄大さを偲ばせている。

展望台からは、近江八幡市街地、安土山、安土城跡などを見渡すことができる。ここから徒歩で7分のところに西の丸跡がある。この眼下には、琵琶湖が一望のもとに広がっている。西の丸から5分で北の丸跡に至り、ここからは西の湖や大中湖干拓地などの違う眺望が楽しめる。琵琶湖畔に見える山が長命寺山であり、その中腹には長命寺がある。長命寺山と八幡山の間に広がる規則正しく整備された広大な農地は、大中の内湖などの干拓地に作られたものであり、干拓前の内湖がいかに大きかったかがよくわかる。残念ながら沖島は長命寺山にさえぎられてみることはできない。

頂上には、この城を築いた秀次の生母とも(瑞龍院日秀尼公)が、秀次の菩提を弔うために京都に建立したお寺で、昭和になってここに移築された日蓮宗唯一の門跡寺院**村雲御所瑞龍寺**がある。

八幡山ロープウェイ乗り場の左手に近江八幡市立図書館があり、その裏手の八幡公園には**豊臣秀次公像**がある。

国内では珍しい瓦専門の展示館が**かわらミュージアム**である。館内には八幡瓦を中心に展示紹介が行われ、建物も瓦の魅力を生かしたものである。八幡堀の船乗り場はこの前にある。

白雲館は、1877年に八幡東学校として建築された貴重な擬洋風建造物である。近江商人が子ども

の教育充実を図るため、その費用の殆どを寄付で賄った。現在は観光案内所が設けられている。

白雲館の前の道を西に行くと、少女から差し出された花を受け取ろうとしている**ヴォーリズの像**が置かれている。その向かい側には、ヴォーリズが興した近江兄弟社の本社がある。1階にはヴォーリズに関わる資料室が造られており、展示されたさまざまな資料を自由に見ることができる。

市内にはヴォーリズの代表的な建築がいくつもある。旧伴家住宅の対面にあった旧警察署を彼が改築した西洋建築の**郷土資料館**、新町通りの近くには**アンドリュース記念館**、その先の仲屋町通りには**旧八幡郵便局**がある。慈恩寺町通りにはヴォーリズ夫妻の旧居でその遺品や資料が展示されている**一柳記念館**(通称ヴォーリズ記念館)があり、予



白雲館 (観光案内所)



ヴォーリズ像



旧八幡郵便局

コラム② ウィリアム・メレル・ヴォーリズ

ヴォーリズは1905年に滋賀県立商業学校(現八幡商業高等学校)の英語教師として来日し、1964年に83歳の生涯を終えるまで近江八幡市に留まった。キリスト教の伝道とその主義に基づく社会教育、出版、医療、学校教育などの社会貢献活動をし、建築設計会社やメンソレータム(現メンターム)で知られる製薬会社などの企業活動を展開してきた。1958年に近江八幡市の名誉市民第1号となった。

1908年12月、ヴォーリズは建築設計監督事務所を開き、2年後にはヴォーリズ合名会社を創設し、以来米国人建築家を含め20~30人建築技師を擁した建築事務所へと発展させた。

建築作品には米国ミッションに関係するものが多く見られるが、一般の商業、オフィスビ

ル、洋風住宅や軽井沢の山荘住宅なども設計している。彼の建築には様々なところで日本の気候風土や住習慣に適合させる工夫がなされている。そこに共通しているのは、実用性に重きをおき、簡潔ではあるけれども豊かなデザインと親しみやすく包容力のある空間を有したものとなっている。



ウィリアム・メレル・ヴォーリズ

[写真提供:公益財団法人 近江兄弟社]



一柳記念館 (通称ヴォーリズ記念館)



日牟禮八幡神社



左義長まつり

[写真提供:一般社団法人 近江八幡観光物産協会]



八幡まつり

[写真提供:一般社団法人 近江八幡観光物産協会]



足伏走馬

[写真提供:賀茂神社]

約すれば見学ができる。この他にも、**ヴォーリズ学園**、**八幡商業高等学校**、**旧忠田邸**、そして**池田町洋風住宅街**には当時のレンガ塀、高い煙突、広々とした庭が特徴であるアメリカ式住宅のモデルハウスが数軒残っている。

安土には、旧住友財閥の第二代総理事として手腕を発揮し、別子銅山の公害問題にも取り組んだ伊庭貞剛の四男の邸宅であった**旧伊庭家住宅**がある。外観は西洋建築だが内部は和風を取り入れた貴重な住宅として公開されている。

毎年、近江八幡市内の各所では国の無形文化財となっている火祭りが行われる。このうち最も賑わいを見せるのが、八幡山の麓にある**日牟禮八幡宮**で行われる**左義長まつり**と**八幡まつり**である。

3月の左義長まつりは、左義長(松明、ダシ、十二月(赤紙)を一基にして御輿のように作る)を揃いの半纏を羽織った踊子が担って町中を練り歩き、組合せ(左義長のけんか)が行われ、そして最後に奉火されてそれが燃えつきるまで祭りは続く。

4月に行われる八幡まつりは、近隣の12郷がそれぞれヨシと菜種がらで作った大小形も様々な松明を境内に立て並べ、順に火がつけられる威勢の良い火祭りである。

また、日牟禮八幡宮には、安南(ベトナム)交易で活躍したことで知られる西村太郎衛門が奉納した絵馬「**安南渡海船額**」があり、国の重要文化財に指定されている。

旧城下町の西はずれにある**賀茂神社**は、全国随一の馬・馬事・競馬・乗馬の守護神である。毎年、古式に則した競馬行事である**あしふせのそうめ**(足伏走馬)の神事が行われている。ここには、3本の榊のうち2本が枝を共有する霊木の**連理榊**がある。

4 西の湖とその周辺

長命寺は西国31番札所である。随筆家の白洲正子(1910-1998)が愛した近江の古刹で、琵琶湖で美しいのは長命寺のあたり、と書いている。長命寺山の麓から急な808段の石段を登った中腹には本堂、三重塔、鐘楼、護摩堂が連なる。琵琶湖を望む境内には**琵琶湖周航歌碑**が置かれ、長命寺が歌われた歌詞が刻まれている。

長命寺山の東は近江八幡市に隣接する能登川町であり、ここに広大な農地が広がっている。琵琶湖の代表的な内湖であった**大中湖**(だいなかのこ、だいなかこ)が戦後に干拓されてできた**大中湖干拓地**である。

干拓地内のまっすぐな道を東に進み**須田川**の左岸沿いに行くと、親水公園**能登川水車とカヌーランドの水車公園**にある直径13mの巨大な**能登川大水車**が目に入る。能登川町(現在は東近江市)には精米や製粉のための水車が36基あったが、今はここに一基だけが残っている。

須田川上流となる**伊庭**は、江戸時代には湖上交通の要所として、大津・松原(現彦根市)・長浜・米原に次ぐ位置を占めたといわれている。集落内には、湧き出した清冽で豊かな水が水路となって流れている。レッドデータブックに記載されている**バイカモ(梅花藻)**や国内で数か所にしか生息しない淡水魚の**ハリヨ**も見ることができる。

干拓されずに残された**伊庭の内湖(大同川)**は、鈴鹿山地からの伏流水によって涵養されており、周囲にはヨシが茂り滋賀県でも有数の野鳥の観測地となっている。

伊庭の内湖から近江八幡方面に向かう一本道を大中の干拓地を横切って進むと、現存する琵琶



長命寺山



長命寺本堂



大中の干拓地



能登川大水車



伊庭の内湖



西の湖



円山地区



あざごいの湧水群上の湧水

湖最大の内湖である**西の湖**に至る。**安土川**、**山本川**、**蛇砂川**、**黒橋川**の4河川が流入し、**長命寺川**を介して琵琶湖につながっている。

長命寺川近くにある円山地区は、**日本の里100選**に選ばれており、水郷めぐりの船乗り場もある。あたり一面に広がるヨシ原のヨシを材料としたヨシズなどの生産がされている。

八幡山から安土に向かう途中の浅小井地区には、**あざごいの湧水群**として知られる5か所の自噴井戸がある。集落に入った道路わきの**上の湧水**では、大量とは言えないがこんこんと湧く様子を見ることができる。湧水は水路となって集落内を流れ、その途中には家庭ごとに生活用水として使っていた**かばた(川端)**が残っており、当時の様子が偲ばれる。この他にも、**湧水の里**や**お池さん**と名づけられた湧水が公園となっている。

浅小井地区には**曳山とイ草の館**がある。**浅小井祇園まつり(曳山まつり)**で巡航する曳山6基や、近江商人が取り扱った畳表の原料のイ草の栽培方法・



畳表の製造道具などが保管・展示されている。

金剛寺町を通る道路の右手辺りのこんもりとした森が**若宮神社**で、その脇に**若宮湧水**がある。現在はポンプアップされており、ここを中心に簡単な河川公園が整備されている。

若宮湧水から安土に向かうと、左手の公園に**野田町湧水**がある。元は明治時代に整備された湧水池であったが現在は親水公園となっている。はっきりとした湧出の様子は確認できないが、湧水はポンプアップされて町内に流れ出ている。

安土にある**北川湧水**と**音堂川湧水**は、旧市街地内に湧出しており、それぞれを起点にした水路が造られ、今も生活用水として使われている。水路の一部に木製のベンチが置かれ、足を浸けることができる「足湧」(深さ約三十センチ、長さ約五メー



湧水の里



かばた (川端)



曳山とイ草の館



若宮湧水



野田町湧水



北川湧水



音堂川湧水



梅の川

トル)は、地元住民の憩いの場であり、子供たちの水遊び場としても利用されている。

音堂川湧水の近くに**梅の川**がある。川と名付けられているが湧水である。この水を使って入れた御茶を信長に献じたところ喜ばれ、それ以後御茶の湯として使用されてきたと伝えられている。今は湧水らしくもなく、往時をしるぶことは難しい。

常浜と**佐和の浜**はかつて西の湖につながる安土の船着き場であった。明治になって蒸気船の寄港地となっていた常浜は、今は**常浜水辺公園**となって人々に親しまれている。

安土山には、織田信長が天下布武の象徴とし、日本百名城の一つとされる**安土城跡**があり、国特別史跡に指定されている。天主跡や本丸跡などが整備保存され、大手門から天主に向けて直線に延びる約180mの石段の大手通、重厚な石垣や礎石は安土城の大きさやうかがわせている。

安土山周辺には日本最初のキリシタン神学校といわれる**セミナリヨ跡**、信長と安土城に関わる資料や弥生～古墳時代の生活様式などを展示している**県立安土城考古博物館**、安土城の20分の1のひな形が展示されている安土城郭資料館、安土城天守の部分を原寸大復元した**信長の館**がある。

八幡堀から水郷めぐりの船着き場に向かう道を行くと、左手に医療活動に熱心であったヴォーリズの近江療養院につながる**ヴォーリズ記念病院**がある。病院を右手に見ながら八幡山の麓に沿って進むと大江観音堂があり、その境内に湧出する清水が**大江の湧水**である。水質がよいとされ、滋賀の名品“鮒ずし”の材料となる“ニゴロ鮒”の養魚にも利用されているとのことである。

近江八幡駅の南3kmの**瓶割山**の北麓に沿って行くと近江八幡唯一の**不二の滝**がある。古くから滝行

コラム③ 朝鮮人街道と中山道武佐宿

近江八幡は多くの道が交差する街道のまちであった。その一つが、江戸時代の慶長12年(1607)に正式に使節を迎え入れて以後、文化8年(1811)までの間、計12回日本にやってきた朝鮮からの使節「朝鮮通信使」が通った朝鮮人街道である。

朝鮮通信使は海路で瀬戸内海、淀川から京都に到着後、陸路で中山道・東海道を通過し江戸を目指した。このうち朝鮮人街道と呼ばれるのは、野洲町小篠原から安土・八幡を経て彦根市鳥居本までの約40kmに限られている。近江八幡市には、通信使の宿舎となった本願寺八幡別院があり、侍従官李南岡(りなんこう)の詞書が残されている。また、旧伴家住宅横には朝鮮通信使石碑がある。

中山道のうち近江路には九つの宿場があった。このうち近江八幡には武佐宿(むさ

じゅく)があり、安藤広重の木曾街道六十九次にも描かれている。武佐宿には、本陣跡、脇本陣跡、大門跡、平尾家役人宅など、江戸時代の宿場町の名残が残されている。



本願寺八幡別院(上)と朝鮮通信使石碑(左)



武佐宿

[写真提供(コラム③内すべて): 一般社団法人 近江八幡観光物産協会]

の信仰の地として知られており、周囲はその雰
 気を漂わせているものの、肝心の滝は山からの湧
 水をパイプで引いて落としており、残念ながら瀑布
 のイメージとは程遠い。



常浜水辺公園



不二の滝



大江水



安土城跡

コラム④ 西の湖の水質

西の湖(面積2.85km²、最大水深3m)は、
 1975年ごろ以降、水生植物の繁茂、透明度
 の低下、プランクトンの異常発生などの水質
 悪化が見られた。

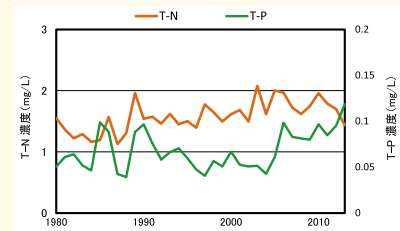
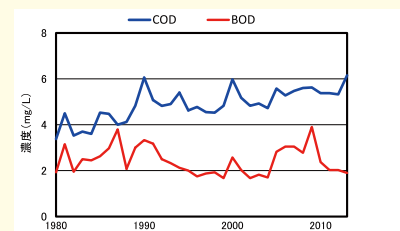
図にCODとBODの経年変化を示す。
 CODは1980年代以降、全体として増加傾
 向が認められた。BODは、1990年ごろま
 ではCODと同様に増加していたが、その後
 2000年にかけては一旦減少し、2005年以
 降は再び増加傾向にある。CODとBOD濃度
 は2005年まで乖離する傾向にあり、2005年
 以降も両者の濃度差は大きい状態で推移し
 ている。

全窒素(T-N)は、年ごとのばらつきはある
 が、全体としては増加傾向にある。全リン
 (T-P)は、1980年代から2000年にかけてや
 や減少しその後は横ばい傾向だが、全体とし
 てみれば1980年から2010年の30年間で
 濃度に大きな変化はないと思われる。

2012年度の西の湖中央地点の水質調査
 結果をみると、CODは5.3mg/Lと滋賀県の

水環境目標値^{注)}(3~4mg/L)より高い値を
 示したものの、pH、DO、BODの水環境目標
 値(pH:6.5~8.5、DO:>7.5mg/L、BOD:2
 ~3mg/L)は達成されている。

注) 西の湖水質保全調査委員会、「西の湖水質保全対策調
 査報告書」、平成5年3月



西の湖中央部におけるCOD、BOD、T-N、T-P
 年度平均値の経年変化



沖島

[写真提供: 一般社団法人 近江八幡観光物産協会]



堀切港から定期船



湖魚料理



奥津島神社

[写真提供: 沖島町離島振興推進協議会]



西福寺と蓮如上人像

[写真提供: 沖島町離島振興推進協議会]

5 沖島

沖島は、琵琶湖の沖合約1.5kmに浮かぶ面積約
 1.5km²の小さな島である。長命寺山の北東にある
 堀切港から定期船に乗ると10分で着く。

万葉集にも登場し、島近くの湖底から縄文土器
 や和同開珎が発見されており、古くから人の往来
 があったようである。本格的に人が住むのは、保
 元・平治の乱(1156~1159)の源氏の落武者7人
 が居住したことに始まると伝えられている。

現在の人口(2014年度)は139世帯324人で、そ
 の多くは漁業関連の仕事についており、ほとん
 の家が漁船を所有している。島内に住む子供た
 ちは、島の小学校を卒業すると対岸の中学校に通
 ことになる。

島を形成している石英斑岩は良質の石材として
 知られ、明治期には琵琶湖疎水、南郷洗堰、東海
 道線の鉄道工事等々で使われたが、1970年には
 石材業の幕は下ろされた。

漁業の島らしく、島内のお店などでは琵琶湖特
 産の鮒ずし、ピワマス、モロコ、アユ、ウナギなど
 の湖魚料理が楽しめる。

かつて、島民の生活用水には朝早く汲んだ琵琶
 湖の水が使われていたが、1961年に湖水を水源
 とした簡易水道が整備された。下水道は1982年
 に完備され、浄化センターが設置されている。

島内には、藤原不比等の建立に始まる奥津島
 神社や、沖島に立ち寄られた蓮如上人ゆかりの西
 福寺がある。西福寺の寺宝には、蓮如上人がムシ
 ロに書いた“南無阿弥陀仏”の文字の濃淡があ
 たかも虎斑のように見えることから名づけられた「
 虎斑の名号」と、島を立ち去る際にお別れの形見と
 して残された正信偈(四句の御文)がある。